

緊急支援活動～サイクロン・テロ～



衣料

食料

浄水

2 飢餓をゼロに



13 気候変動に具体的な対策を



10 人や国の不平等をなくそう



16 平和と公正をすべての人に



目標

支援が行き届かない人たちの生命を守る。

日本も参入する巨大天然ガス開発を背景に、テロ攻撃が激化。

2500名以上が死亡、避難民57万人超。

2020年12月14日



Attacks by jihadist insurgents
● 2018 ● 2019 ● 2020*
Source: ACLED *To March 18th

2020年8月には、天然ガス輸送拠点をイスラム過激派が占拠。

モザンビーク、I S系が港占拠・交戦 日本のがス事業進行中の 一帯

2020年08月14日14時12分

JIJI.COM



【マプトAFP時事】三井物産などが参画し天然ガス開発が行われている東アフリカのモザンビーク北東部で12日、過激派組織「イスラム国」(I S)とつながりがある武装勢力が主要港を襲撃し、占拠した。ネット国防相は13日、治安部隊が港奪還に向け「激戦」を継続中と明らかにした。

アフリカLNG開発へ1.5兆円融資 官民で支援、調達先多角化

占拠されたのは、アフリカ最大級の液化天然ガス(LNG)プロジェクトが進んでいるアング半島の南方約80キロにある港町モシンボアダプライア。事業における一大輸送拠点となっている。

2020年11月に日本語で伝えられたカーボデルガド州テロニュースの一部。

通過儀礼参加の少年ら20人斬首 イスラム過激派がモザンビーク

AFPBB News 2020/11/05 20:07



© EMDIO JOSINE / AFP モザンビーク・カボデルガド州マコミアの街並み（2018年6月11日撮影、資料写真）。

【AFP＝時事】モザンビーク・カボデルガド（Cabo Delgado）州で、男性が受ける通過儀式を行っていた成人と10代の少年合わせて20人以上が、過激派とみられる一団によって首を切断され殺害されたと、現地情報筋が4日、明らかにした。同国北東部では、反政

モザンビークの武装勢力、50人以上の首を切断 北部の村を襲撃

2020年11月10日 BBC



モザンビークでは武装勢力による襲撃が相次いでいる。写真は昨年8月、カボデルガド州マコミア付近の村が襲われた後の状況

アフリカ南部モザンビークの北部の村で、イスラム主義者らの武装集団による襲撃があり、50人以上が首を切断されて殺害された。国営メディアなどが報じた。

モザンビーク：戦闘で避難民が40万人に急増 人道援助が急務に

国境なき医師団

© 2020年11月6日 14時49分

50	いいね!	ツイート	はてな	資料DL	その他
シェア					

モザンビーク北部のカーボデルガド州で、武装勢力による攻撃と政府軍との長引く武力衝突により、40万人余りの人びとが住まいを失われ、国内避難民となっている。人びとの多くは、過密状態での暮らしを強いられ、飲料水の確保にも窮する厳しい生活を送る。しかしや感染性の下痢症、新型コロナウイルス感染症など、さまざまな健康リスクに直面している。国境なき医師団（MSF）は、避難民への援助は基本的なニーズすら満たしていないと、現地当局に対し人道援助の規模拡大を支援するよう訴えている。

NEWSFLASH

モザンビーク、避難民船沈没40人死亡

会員登録有料記事 毎日新聞 2020年11月6日 東京夕刊

モザンビーク > 夕刊その他 > 紙面掲載記事 >



イスラム過激派の襲撃が相次ぐモザンビーク北部カボデルガド州沖で、避難民を乗せた船が沈没した。30人超は救助され無事だったが、子どもを含む約40人が死亡した。A P通信が4日報じた。事故の発生日は不明。船は岩場に衝突し沈没した。定員を大幅に超過していたもようだ。

2020年12月には、ペンバ(人口20万人)に、

避難民13万人超が流入。

ニュース

戦争・紛争

イスラム過激派から逃れた13万人超、モザンビーク港湾都市に殺到

2020年12月14日 16:22 発信地：ペンバ/モザンビーク [モザンビーク, アフリカ]



イスラム過激派思想の流入・集団化

2017年 ガス開発地区での最初の攻撃

2019年 ISCAPが初めて声明文を出す

シャーリア法に基づいたカリフ制国家の樹立

資金源はヘロインや象牙、密輸品

NOW: ガス開発地区の港を占拠
タンザニア国境も攻撃

2008年採掘権
2011年ガス田発見ニュース

巨大液化天然ガスの発見と開発

アフリカ最大規模のプロジェクト融資契約

投資額は最大25億ドル(2700億円)

年間1300万トン生産予定の天然ガスの3割は日本の電気・ガス会社を買取。

北部国境の文化歴史的ゆるさ

モザンビーク北部はイスラム教が多い

モザンビーク北部は貧困度失業率が高い

政治腐敗エリート層への不満

当会事務局から徒歩10分のビーチに、避難民が1日800人ペースで船で到着。中には難破し死者を出す船、またコレラ患者も避難民にいる。



イスラム過激派
テロ攻撃の拡大

死者・避難民の
増加、エリア拡散

過激派のリクルー
トが活発化

子供青年は貧困
から過激派に参加
する者が増加

テロ攻撃の悲報が続くなか、過激派に参加する者も増加。子供青年たちのいのちを守り、安寧を導くため、平和創造活動が必要に。



実施事業について①

事業名

モザンビーク共和国テロ被災者支援及び平和教育活動

当会では2015年よりスラムの学び舎・寺子屋及び当会事務局での教育活動を実施。
2歳から35歳まで1日に20名から50名が通所、延べ通所人数は約150名。

子供たちの知的好奇心や向学心の向上



教育に無関心or余裕がない保護者の意識改善

道徳心をベースとした基礎教育や疾病予防、文化教育で、子供たちの知的活力が向上！

しかし……2019年からイスラム過激派のテロが激化、拡大。

近づくテロ攻撃の銃声。
避難民流入により、一つの家に
30名-40名で暮らす家も増加。

テロ

お金欲しさに、過激派に
参加する子供若者が増加。
誘拐拉致事件も増加。

もともと失業率が7割と
高いがコロナ不況で
貧困がさらに深刻化。

コロナ

課題

- ①【命を守る】テロ攻撃地区が拡大しているため、ペンバ攻撃に備えた避難先の確保が必要。
- ②【安寧を創る】イスラム過激派に参加する者(加害者)、拉致誘拐される者(被害者)が増加する現状を打開する平和教育が必要。

目的

スラムの子供の命を守り、安寧への行動をとる。



実施事業について②被災者支援(避難場所設置)活動

目的 【子供の命を守る】ペンバへのテロ攻撃時に他州に避難し、スラムの住民の命を守る。

内容 カーボデルガド州以外の州にまずは一箇所避難場所(土地建物)を確保する。

エリア 候補1: ナンプラ州ナカラ周辺 候補2: ナンプラ州リバウエ 候補3: ニアッサ州リシंगा

対象 モザンビーク共和国カーボデルガド州ペンバ
スラムの学び舎・寺子屋や近隣の住民で希望する者

当会モザンビーク人スタッフ2名による不動産調査(不動産業者がないので足で調べる)

- ・信頼できる人がいるエリアであること。
- ・カーボデルガド州からの避難民に嫌悪感を抱いていないエリアであること。
- ・ペンバから車での移動距離が12時間以内であること。
- ・コスト削減のため伝統的な家屋で良い。

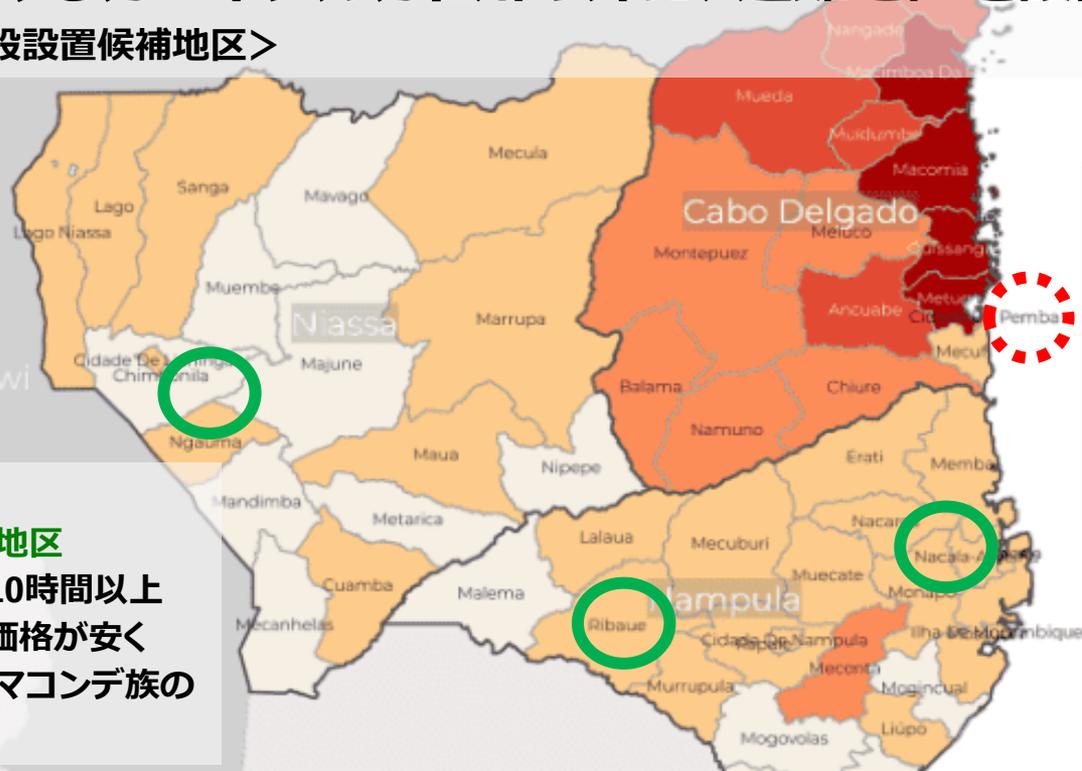
**設置
基準
方法**

- Step1> ナンプラ州、ニアッサ州に出張調査と同時に不動産の口コミ情報を入手。
- Step2> 価格条件から交渉する不動産を選定。
- Step3> 持ち主との交渉。
- Step4> 契約(持ち主、行政)
- Step5> 寺子屋関係者への避難場所情報の共有。



テロ攻撃を受けるカーボデルガド州の外に、避難地区を設置。

＜避難施設設置候補地区＞

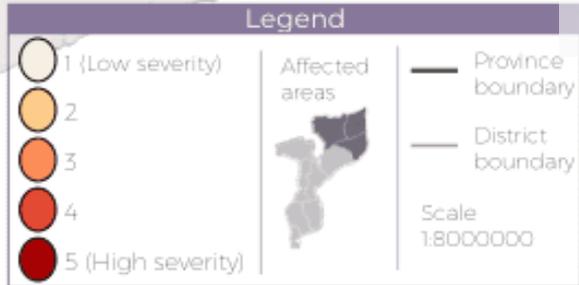


カーボデルガド州
ペンバ
 当会事務局所在地
 テロ攻撃激化、新型コロナウイルス対策に伴い
 地域一体が子供たちの
 救済必要地区となっている。

ニアッサ州
 候補地1: **リシंगा地区**
 ⇒ペンバから車で10時間以上
 かかるが、不動産価格が安く
 当会ディレクター・マコンデ族の
 集落がある。

ナンプラ州
 候補地1: **ナンプラ**
 ⇒ペンバから車で5時間と
 近いが州都の市街で不動産
 価格が高いが安全。
 候補地2: **リバウエ**
 ⇒当会代表の知り合いの
 会社の事務所がある農村。
 車で8時間。

Severity of Child Protection Needs
 Cabo Delgado, Nampula and Niassa
 2nd November 2020



※赤色が濃いほど子供たちの保護・ケアが必要。

Data Source: Child Protection AoR severity mapping using a combination of Protection and Child Protection indicators. Map Source: OCHA, 2019. Mozambique Subnational Administrative Boundaries, extracted from data.humdata.org

Contact: Neidi de Carvalho (CP AoR Coordinator), ndecarvalho@unicef.org, or Mike Pearson (CP AoR IM), mpearson@unicef.org

実施事業について③ 平和教育活動

<p>目的</p>	<p>【子供の未来の安寧を創る】テロの被害者・加害者にならない意識醸成と、世界に平和への願いを訴える情報発信。</p>
<p>内容</p>	<p>(1) 平和意識を育む： 戦争と平和についてく聞いて、知って、考える モザンビークにおける戦争の話、いま起きているテロについて、宗教について学校や友達、家庭で平安な状況をつくるためのコミュニケーション方法や考え方。 (2) 平和創造を表現する： 平和の大切さを音楽で世界に発信する 世界平和の重要性を訴求する歌をペンバのアーティストと子供たちで製作する。世界に向け発信することで平和行動への誇りと自負を強くする。</p>
<p>対象</p>	<p>モザンビーク共和国カーボデルガド州ペンバ ナティティ地区のスラムの学び舎・寺子屋に通う2歳から30歳の子供・青年及びペンバのアーティスト</p>

<p><1:聞く> 内戦経験者の話を聞く</p>	<p>戦争紛争の歴史を知る</p>	<p>1992年以前に生まれた内戦経験者(モザンビーク内戦:1977年~1992年)の話を聞き、カーボデルガド州で起きた戦いの事実を知る。</p>
<p><2:考える> 平和について考える</p>	<p>今起きているテロを知る。平和について考える。</p>	<p>ナティティ地区にはテロ攻撃から疎開してきた子供たちもあり、またイスラム過激派のリクルートも行われている。 政府の情報規制により放送されないテロの事実を知り、また、平和とはどういう状態なのか、平和に過ごすにはどうしたら良いのかを主体的に考えていく。</p>
<p><3:表現する> 平和の歌を歌い動画を制作しインターネットにアップする。</p>	<p>音楽教育の力を平和教育にも活かす。</p>	<p>ナティティ地区にはテロ攻撃から疎開してきた子供たちもあり、またイスラム過激派のリクルートも行われている。 政府の情報規制により放送されないテロの事実を知り、また、平和とはどういう状態なのか、平和に過ごすにはどうしたら良いのかを主体的に考えていく。 ※動画作成する歌:『El derecho de vivir en paz/平和に生きる権利』</p>



ペンバのアーティスト: 上/ナジャ 下左/ヴァルディ 下右/オズバルド

実施事業について④奨学活動

目的	スラムの子供たちが健やかに、笑顔で、学校に通えるようにする。
内容	公立学校に通うための奨学用品の配布。
対象	モザンビーク共和国カーボデルガド州ペンバ ナティティ地区のスラムの学び舎・寺子屋に通う2歳から30歳の子供・青年 のうち、奨学用品がない50名(6歳から18歳、すでに通学済or通学決定者)
配布物	<p><配布するもの> 各50セット</p> <ul style="list-style-type: none">■規定の制服(路上の裁縫屋で縫製) →制服が買えずに学校に通えない 子どもが多いため。■ビーチサンダル(路上のサンダル屋で購入) →履物が買えず、はだして生活しているため■スニーカー(中国雑貨店で購入) →屋外授業で靴が必要なため■かばん(中国雑貨店で購入) →かばんが買えずレジ袋を使っているため■ノートとペン(資材屋で購入) →筆記用具が全く足りてないため

